(53) 外出すると病院、施設、家などに一人で戻れなくなることが（外出して戻れない）

全体としては、外出すると病院、施設、家などに一人で戻れなくなることについては、初回は、「ない」が 15,192 名（92.6%）、「ときどきある」が 418 名（2.9%）、「ある」が 546 名（4.5%）であった。２回目は、「ない」が 15,251 名（92.8%）、「ときどきある」が 369 名（3.0%）、「ある」が 536 名（4.2%）であった。３回目は、「ない」が 15,236 名（91.7%）、「ときどきある」が 299 名（3.1%）、「ある」が 621 名（5.1%）であった。４回目は、「ない」が 15,207 名（91.4%）、「ときどきある」が 314 名（3.1%）、「ある」が 635 名（5.6%）であった。

これらの結果、外出すると病院、施設、家などに一人で戻れなくなる問題行動の発生は、初回 6.0%で、２回目 5.6%と減少し、３回目 5.7%と増加、４回目に 5.9%とさらに増加していた。

要介護度別にみると、要介護 3 でこの問題行動はよく発生していた。非該当では初回、２回では全く発生していなかったが、３回目、４回目でともに 4.3%発生していた。要支援、要介護 1 は、認定回数が増えるにしたがって、外出して戻れないという問題行動が発生する割合も増えていた。要介護 2 から 4 までは、初回から２回目に問題行動は減少していたが、要介護 5 では増加していた。２回目から３回目においては、要介護 2 と 4 は増加していたが、要介護 3 と 5 では減少していた。３回目から４回目は、要介護 2、3、4 では減少していたが、要介護 5 では増加していた。

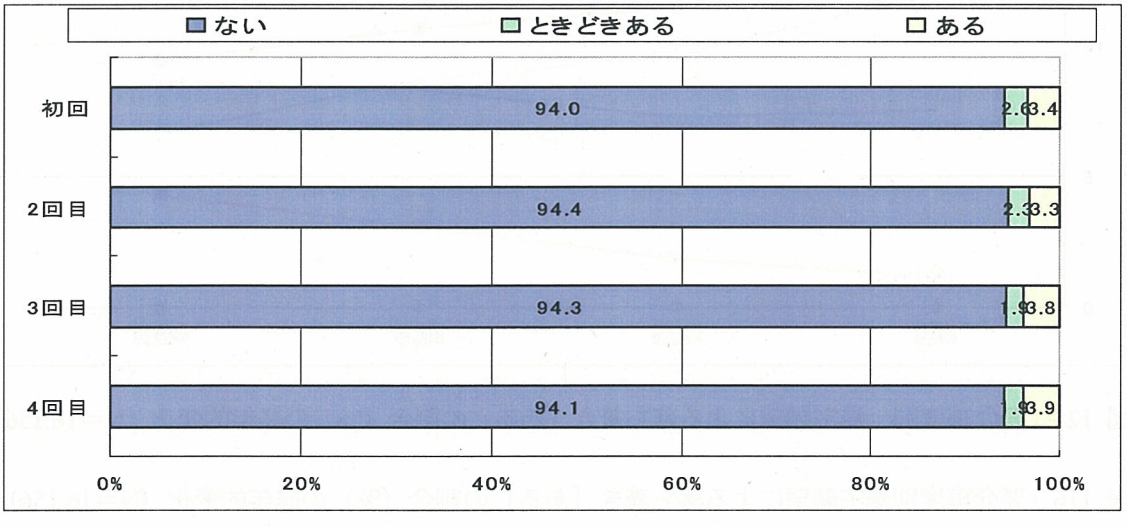

図 126　外出して戻れない（N=16,156）

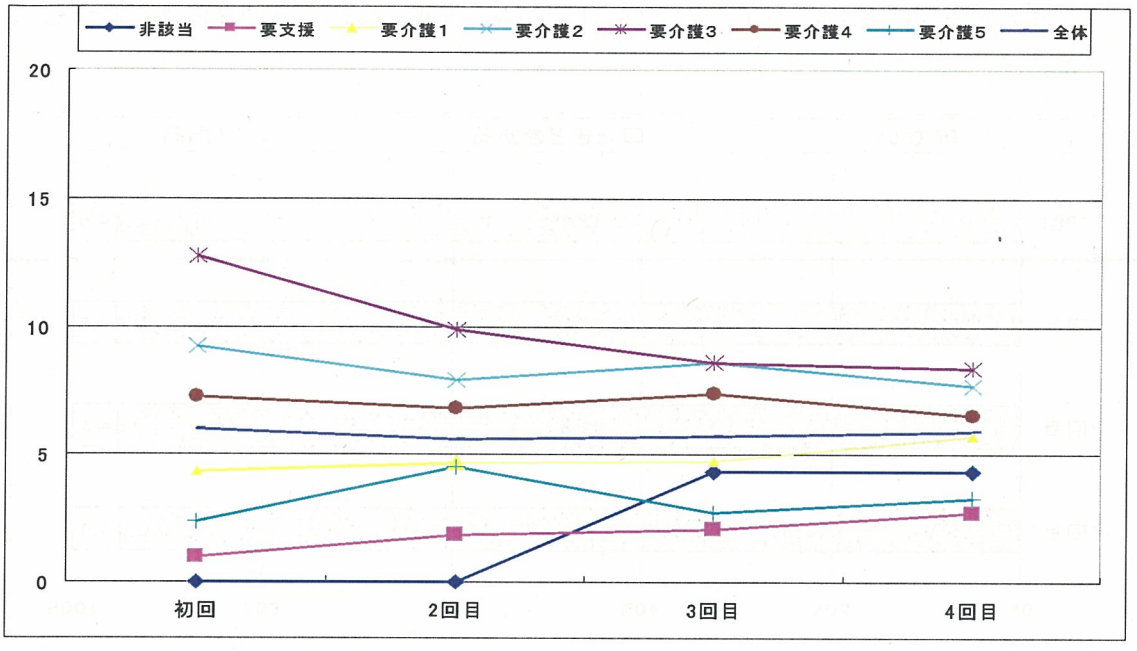

図 127　要介護度別　外出して戻れないことが「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 117　要介護度別　外出して戻れないことが「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	1.0	4.3	9.2	12.7	7.3	2.4	6.0
2回目	0	1.8	4.7	7.9	9.8	6.8	4.5	5.6
3回目	4.3	2.0	4.8	8.6	8.6	7.4	2.7	5.7
4回目	4.3	2.7	5.7	7.7	8.4	6.5	3.3	5.9

(54) 一人で出たがり目が離せないことが（一人で出たがる）

全体として、1人で外に出たがり目が離せないことが、初回は「ない」が 15,009 名（92.9%）、「ときどきある」が 412 名（2.6%）、「ある」が 735 名（4.5%）であった。2回目は「ない」が 14,988 名（92.8%）、「ときどきある」が 449 名（2.8%）、「ある」が 719 名（4.5%）であった。3回目は「ない」が 14,995 名（92.8%）、「ときどきある」が 411 名（2.5%）、「ある」が 750 名（4.6%）であった。4回目は「ない」が 14,952 名（92.5%）、「ときどきある」が 419 名（2.6%）、「ある」が 785 名（4.9%）であった。

このように一人で外に出たがり目が離せないという問題行動がある割合は、初回 7.1%、2回目、3回目 7.2%、4回目 7.5%とわずかに増加していた。

要介護度別には、要介護 3 でこの問題行動は多く発生していた。要支援、要介護 1 では、認定回数が増えるにしたがって、問題行動の割合も増加していた。逆に要介護 3 と 4 は、初回から4回目まで、認定回数が増えるにしたがって問題行動の割合は減少していた。要介護 2 は初回から3回目までは減少していたが、4回目で増加していた。要介護 5 は、初

回と２回の発生率は 5.4%と同じで、３回目に 5.7%と増加したが、４回目に 4.8%と減少していた。

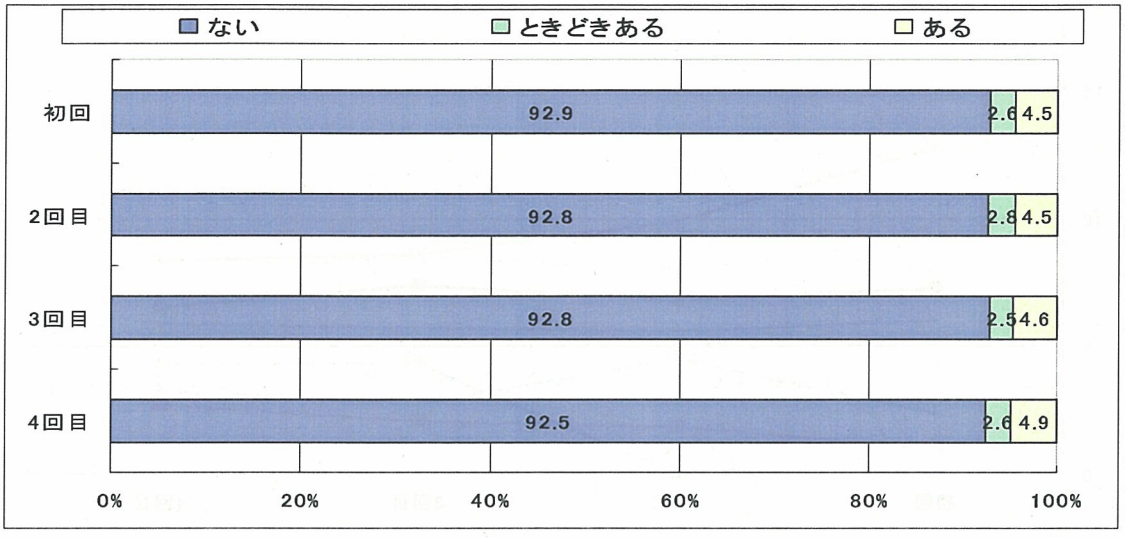

図 128　一人で出たがる（N＝16,156）

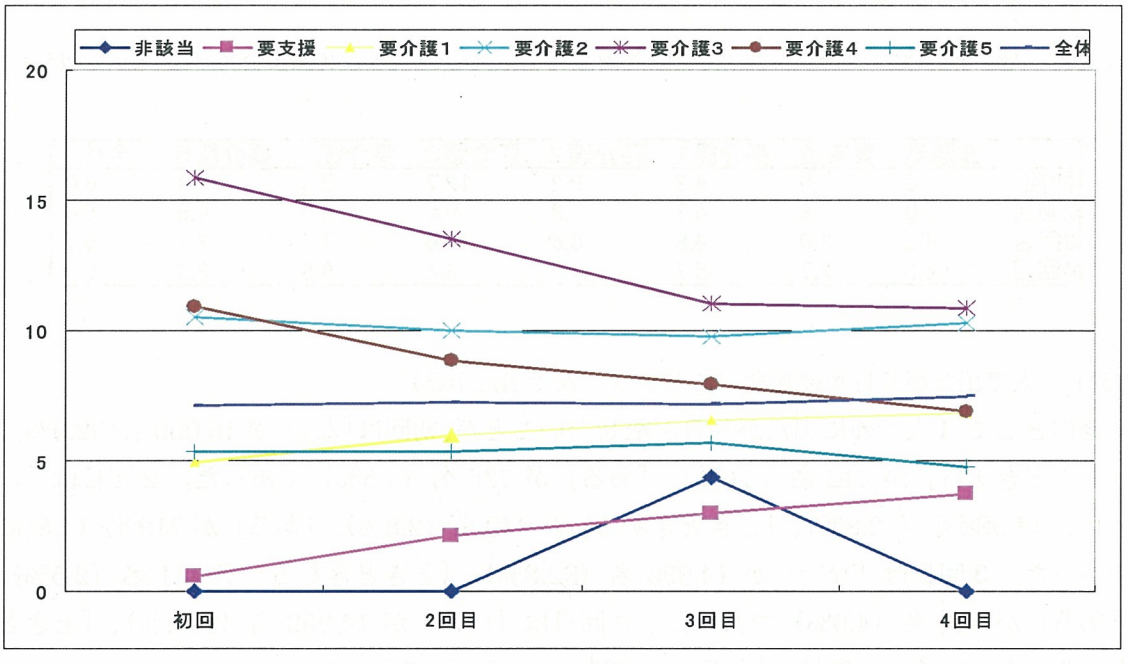

図 129　要介護度別「一人で出たがることが「ある」の割合（%）の経年的変化（N＝16,156）

表 118　要介護度別「一人で出たがることが「ある」の割合（%）の経年的変化（N＝16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.6	5.0	10.5	15.9	10.9	5.4	7.1
2回目	0	2.1	6.0	10.0	13.5	8.9	5.4	7.2
3回目	4.3	3.0	6.5	9.8	11.1	7.9	5.7	7.2
4回目	0	3.7	6.9	10.3	10.9	6.9	4.8	7.5

(55) いろいろなものを集めたり、無断でもってくることが（収集癖）

全体として、収集癖という問題行動は、初回は「ない」が 15,485 名（95.8%）、「ときどきある」が 221 名（1.4%）、「ある」が 450 名（2.8%）であった。2 回目は「ない」が 15,420 名（95.4%）、「ときどきある」が 247 名（1.5%）、「ある」が 489 名（3.0%）であった。3 回目は「ない」が 15,358 名（95.1%）、「ときどきある」が 247 名（1.5%）、「ある」が 551 名（3.4%）であった。4 回目は、「ない」が 15,301 名（94.7%）、「ときどきある」が 237 名（1.5%）、「ある」が 618 名（3.8%）であった。

これらの結果から、収集癖がある要介護高齢者の割合は、初回 4.2%、2 回目 4.6%、3 回目 4.9%、4 回目 5.3%と増加していた。

要介護別にみると、要介護 3 での発生率が高かった。非該当から要介護 1 までは、すべて初回から 4 回目にかけて増加していた。要介護 2 は、初回から 3 回目までは収集癖のある割合が増加していたが、4 回目では減少していた。要介護 3 においては、認定回数が増加するにしたがって、収集癖の割合は減少していた。要介護 4 と 5 は、初回から 2 回目には収集癖の割合は減少していた。また、2 回目から 3 回目には、要介護 4 は増加していたが要介護 5 については、変化はなかった。さらに 3 回目から 4 回目においては、要介護 4 も要介護 5 も同様に増加していた。

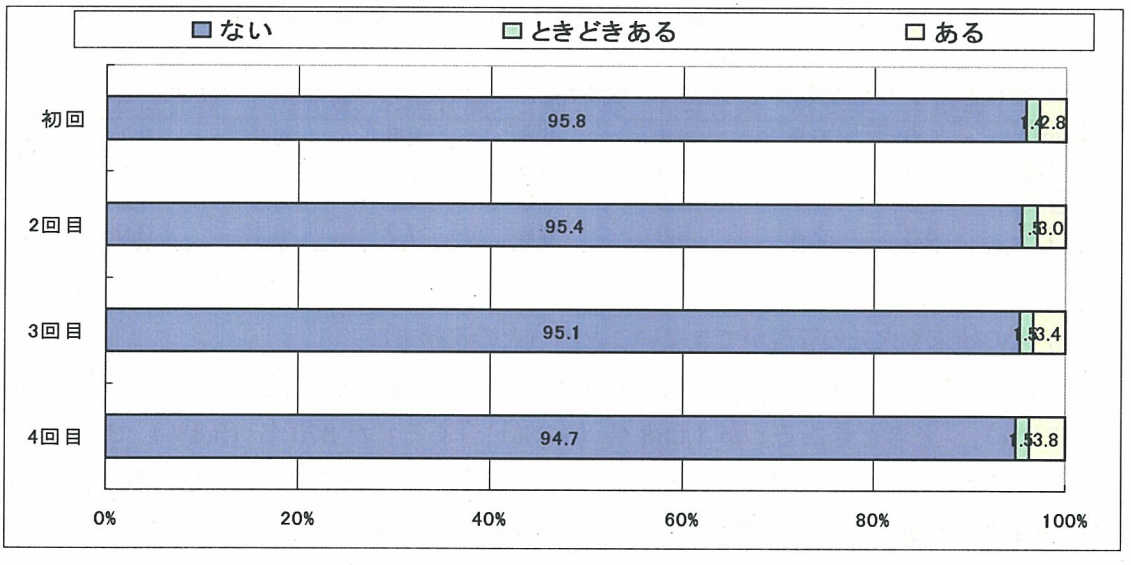

図 130　収集癖（N＝16,156）

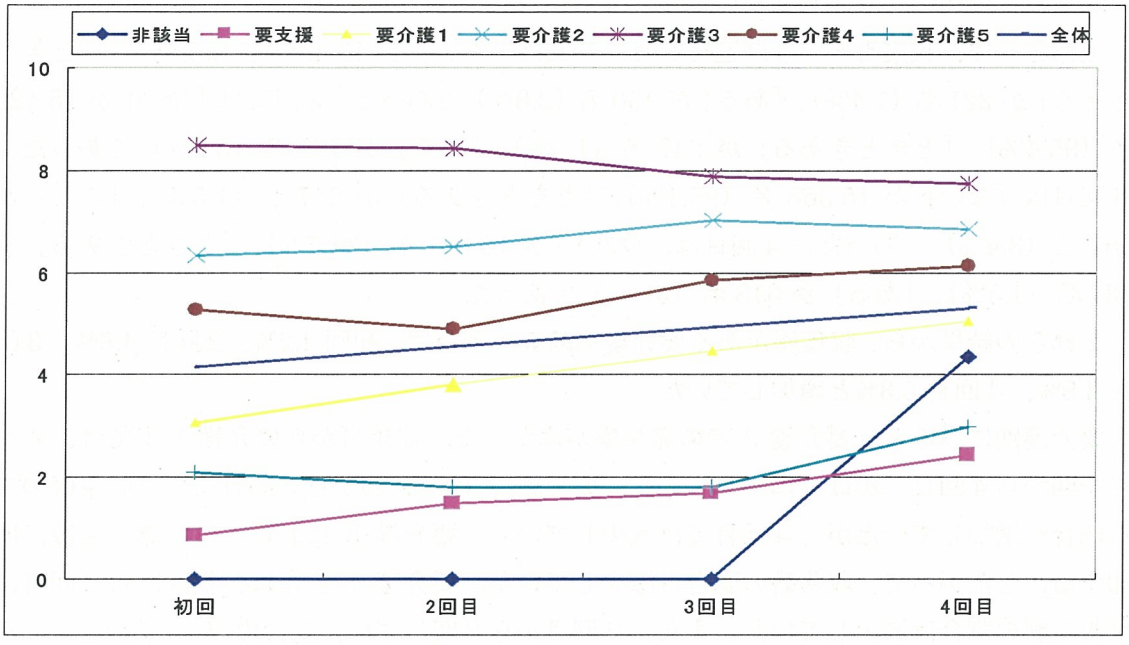

図 131　要介護度別　収集癖が「ある」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 119　要介護度別　収集癖が「ある」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.9	3.1	6.3	8.5	5.3	2.1	4.2
2回目	0	1.5	3.8	6.5	8.4	4.9	1.8	4.6
3回目	0	1.7	4.5	7.0	7.9	5.8	1.8	4.9
4回目	4.3	2.4	5.0	6.8	7.7	6.1	3.0	5.3

(56) 火の始末や火元の管理ができないことが（火の不始末）

全体として、火の始末や火元の管理ができない問題行動が、初回は「ない」が 14,198 名（87.9%）、「ときどきある」が 1,088 名（6.7%）、「ある」が 870 名（5.4%）であった。2 回目は「ない」が 14,539 名（90.0%）、「ときどきある」が 962 名（6.4%）、「ある」が 655 名（4.1%）であった。3 回目は「ない」が 14,763 名（91.4%）、「ときどきある」が 849 名（5.3%）、「ある」が 544 名（3.4%）であった。4 回目は「ない」が 14,939 名（92.5%）、「ときどきある」が 733 名（4.5%）、「ある」が 484 名（3.0%）であった。

これらの結果から、火の始末や火元の管理ができない要介護高齢者の割合は、初回 12.1%、2 回目 10.0%、3 回目 8.6%、4 回目 7.5%と認定回数が増えるにしたがって減少していた。

要介護度別には、火の不始末の問題行動が多いのは、要支援、要介護 1、要介護 2 であった。非該当と要介護 4 以外は、すべて認定回数が増えるにしたがって、火の始末ができない割合は減少していた。非該当は、初回 0%から 2 回目 21.7%と増加し、3 回目 13.0%と減少、4 回目 8.7%とさらに減少していた。要介護 4 は、初回 4.8%から 3 回目 2.1%と減少す

るが、４回目に 2.4%とわずかに増加していた。

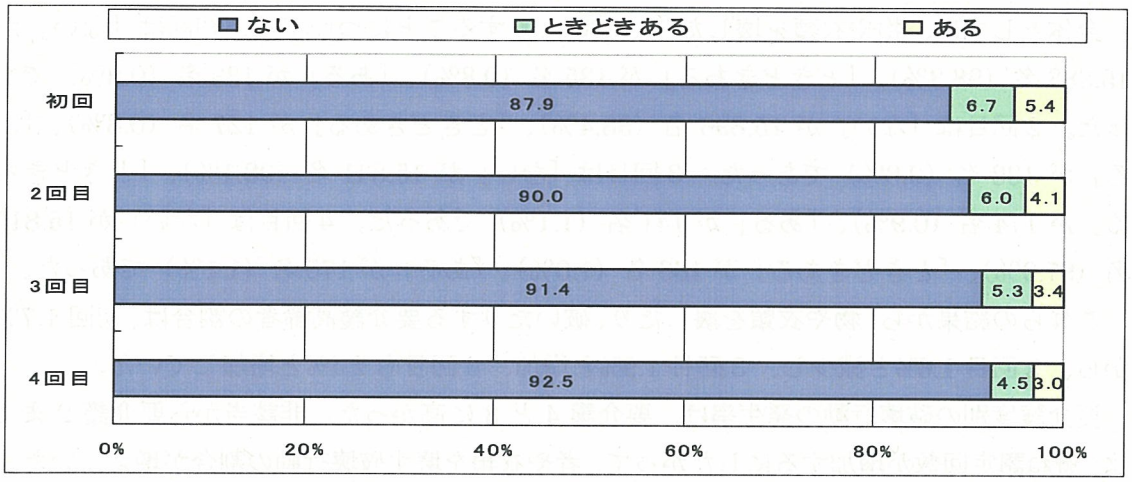

図 132　火の不始末（N＝16,156）

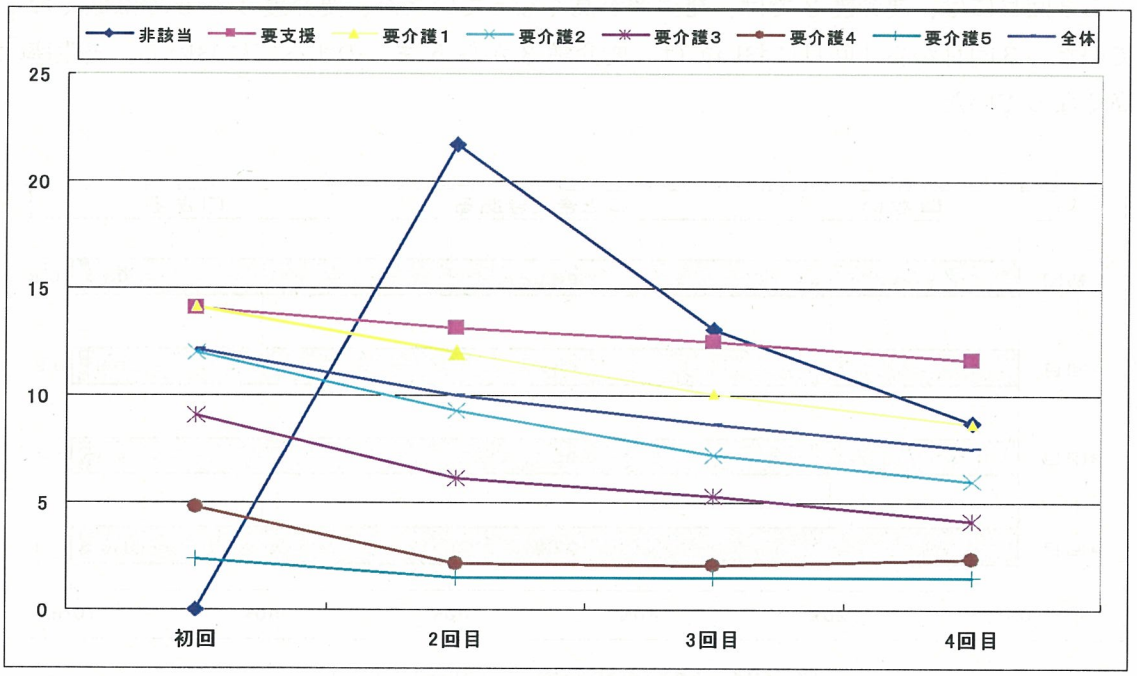

図 133　要介護度別火の不始末が「ある」の割合（%）の経年的変化（N＝16,156）

表 120　要介護度別火の不始末が「ある」の割合（%）の経年的変化（N＝16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	14.1	14.1	12.0	9.1	4.8	2.4	12.1
2回目	21.7	13.1	12.0	9.3	6.2	2.2	1.5	10.0
3回目	13.0	12.5	10.1	7.2	5.3	2.1	1.5	8.6
4回目	8.7	11.7	8.6	6.0	4.2	2.4	1.5	7.5

(57) 物や衣類を壊したり、破いたりすることが（物や衣類を壊す）

全体としては、物や衣類を壊したり、破いたりすることについては、初回は「ない」が15,888名（98.3%）、「ときどきある」が135名（0.8%）、「ある」が133名（0.8%）であった。2回目は「ない」が15,896名（98.4%）、「ときどきある」が127名（0.8%）、「ある」が133名（0.8%）であった。3回目は「ない」が15,841名（98.1%）、「ときどきある」が174名（0.9%）、「ある」が141名（1.1%）であった。4回目は「ない」が15,815名（97.9%）、「ときどきある」が166名（1.0%）、「ある」が175名（1.1%）であった。

これらの結果から、物や衣類を壊したり、破いたりする要介護高齢者の割合は、初回1.7%から、2回目1.6%と減少し、3回目1.9%と増加、4回目も2.1%と増加していた。

要介護度別の破壊行動の発生率は、要介護4と3に高かった。非該当から要介護2までは、概ね認定回数が増加するにしたがって、者や衣類を壊す破壊行動の割合が増えていた。要介護3から5までは、初回から2回目に、破壊行動の発生割合は減少していた。2回目から3回目には、要介護3では、発生率が高くなっていたが、要介護4と5では低くなっていた。3回目から4回目においては、要介護3から5までのすべてにおいて、発生率は高くなっていた。

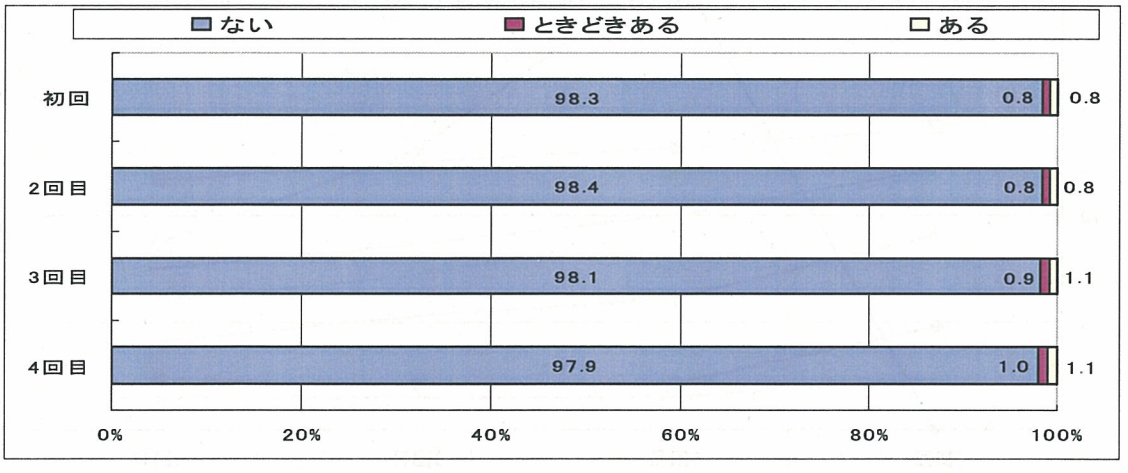

図 134　物や衣類を壊す（N＝16,156）

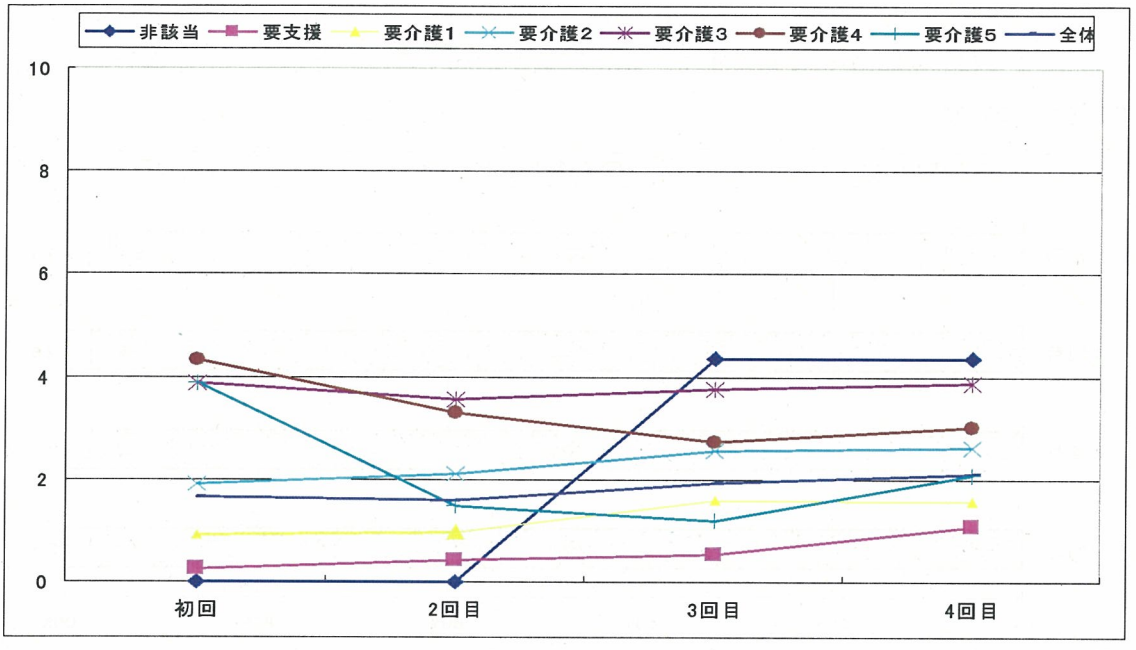

図 135　要介護度別物や衣類を壊すことが「ある」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 121　要介護度別物や衣類を壊すことが「ある」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.2	0.9	1.9	3.9	4.3	3.9	1.7
2回目	0	0.4	1.0	2.1	3.6	3.3	1.5	1.6
3回目	4.3	0.5	1.6	2.6	3.8	2.7	1.2	1.9
4回目	4.3	1.1	1.6	2.6	3.9	3.0	2.1	2.1

(58) 不潔行為

全体として、不潔な行為は、初回は「ない」が 15,432 名（95.5%）、「ときどきある」が 332 名（2.1%）、「ある」が 392 名（2.4%）であった。2 回目は「ない」が 15,434 名（95.5%）、「ときどきある」が 305 名（1.9%）、「ある」が 417 名（2.6%）であった。

3 回目は「ない」が 15,490 名（95.9%）、「ときどきある」が 281 名（1.7%）、「ある」が 385 名（2.4%）であった。4 回目は、「ない」が 15,430.名（95.5%）、「ときどきある」が 299 名（1.9%）、「ある」が 427 名（2.6%）であった。

このように不潔行為が初回と 2 回目、4 回目が 4.5%の発生率で 3 回目が 4.1%とわずかに低い割合を示していたが、4 回目のそれぞれにおいて、ほとんど変化はなかった。

要介護別に不潔行為の発生率が高かったのは、要介護 3 が 11.2%、要介護 4 が 10.1%、要介護 5 が 11.6%であった。非該当について、初回から 4 回まで不潔行為があるものはいなかった。要支援は、初回から 4 回まで、漸次、増加していた。要介護 1 は、初回から 2 回目に増加し、3 回目は変化がなかったが、4 回目は増加していた。要介護 2 は、初回と

２回目は同じであり、３回目わずかに減少したが、４回目に再び増加していた。要介護 3 から 5 までは、初回から４回目まで、認定回数が増加するにしたがって、不潔行為の割合が減少していた。

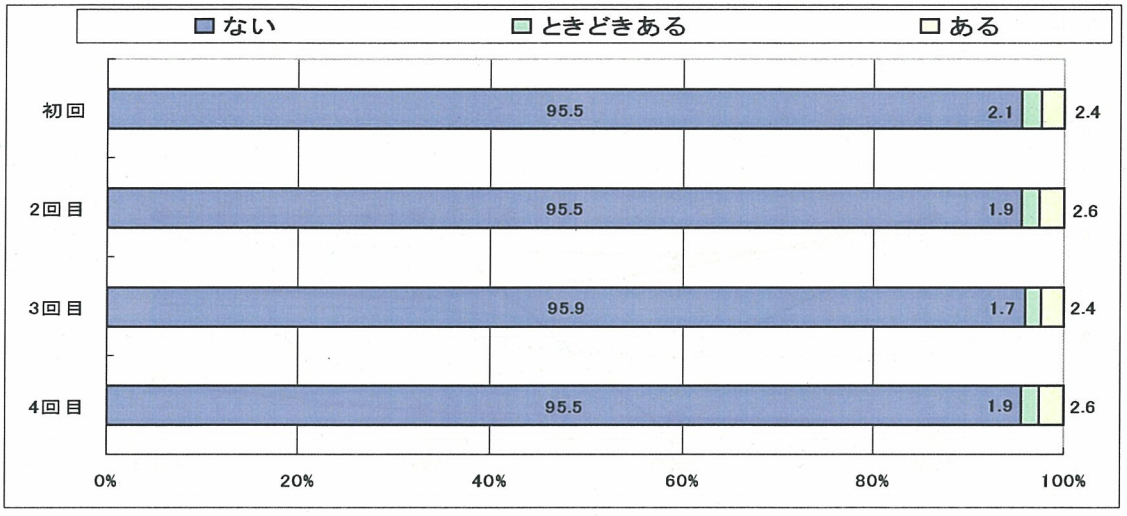

図 136　不潔行為（N＝16,156）

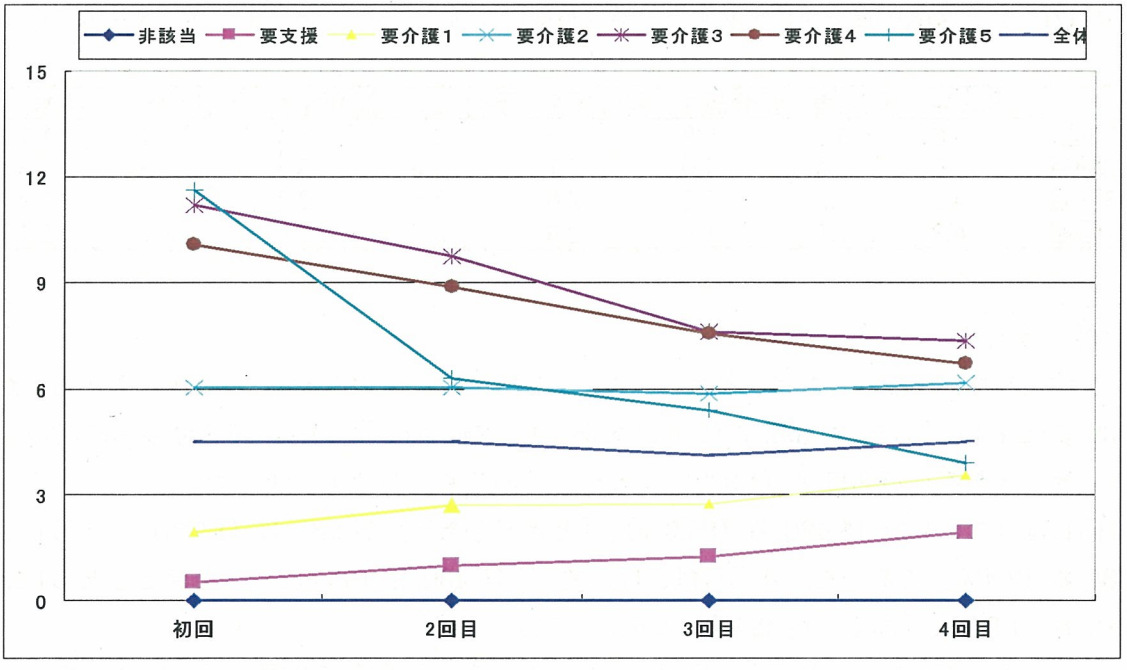

図 137　要介護度別　不潔行為「ある」の割合（%）の経年的変化（N＝16,156）

表 122　要介護度別　不潔行為「ある」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.5	1.9	6.0	11.2	10.1	11.6	4.5
2回目	0	1.0	2.7	6.0	9.7	8.9	6.3	4.5
3回目	0	1.3	2.7	5.9	7.6	7.5	5.4	4.1
4回目	0	1.9	3.5	6.2	7.3	6.7	3.9	4.5

(59) 食べられないものを口に入れることが（異食行動）

全体としての異食行動は、初回は「ない」が 15,929 名（98.7%）、「ときどきある」が 123 名（0.6%）、「ある」が 104 名（0.8%）であった。2 回目は「ない」が 15,928 名（98.6%）、「ときどきある」が 140 名（0.5%）、「ある」が 88 名（0.9%）であった。3 回目は「ない」が 15,886 名（98.3%）、「ときどきある」が 158 名（0.7%）、「ある」が 112 名（1.0%）であった。4 回目は「ない」が 15,858 名（98.2%）、「ときどきある」が 170 名（0.8%）、「ある」が 128 名（1.1%）であった。

このように異食という問題行動は、初回と 2 回目 1.4%、3 回目 1.7%、4 回目 1.8%と認定回数が増えるにしたがって、わずかに増加していたが、かなり低い割合であった。

要介護度別には、この問題行動が多かったのは、要介護 3 と 4 であった。非該当は、初回から 3 回目までは 0 であったが、4 回目に 4.3%を示していた。要支援は、初回と 2 回が 0.2%、3 回目が 0.5%とわずかに増加したが、4 回目には減少していた。要介護 1 は、初回から 4 回目まで、認定回数の増加に伴って、問題行動の割合もわずかに増加していた。要介護 2 は初回から、3 回目までは増加していたが、4 回目でわずかに減少していた。要介護 3 は、初回から 2 回目は減少していたが、3 回目には変化がなく、4 回目には増加していた。要介護 4 は、初回から 3 回目までは減少していたが、4 回目で増加していた。要介護 5 は、初回から 2 回目までで減少し、2 回目から 3 回目で増加するが、3 回目から 4 回目で、再び減少していた。

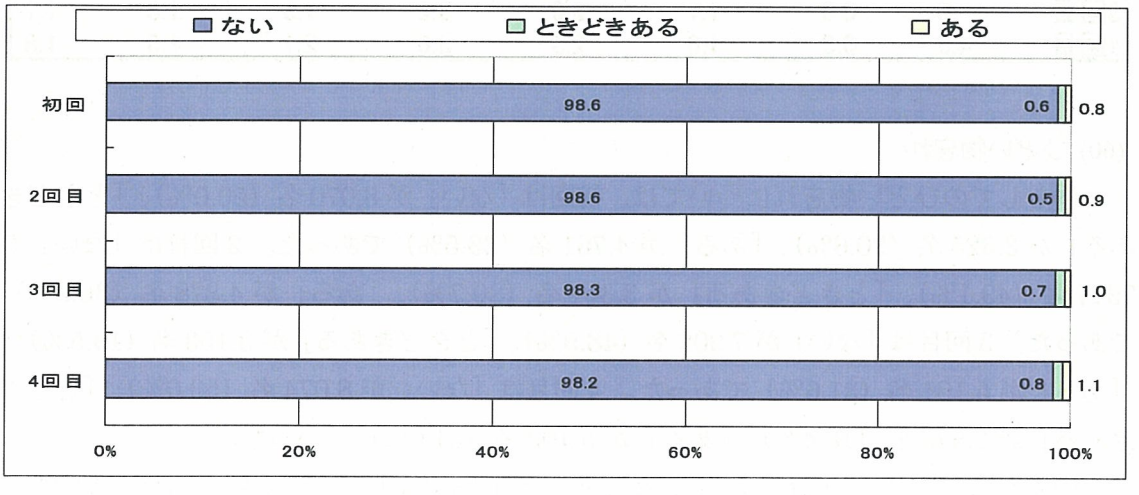

図 138　異食行為（N=16,156）

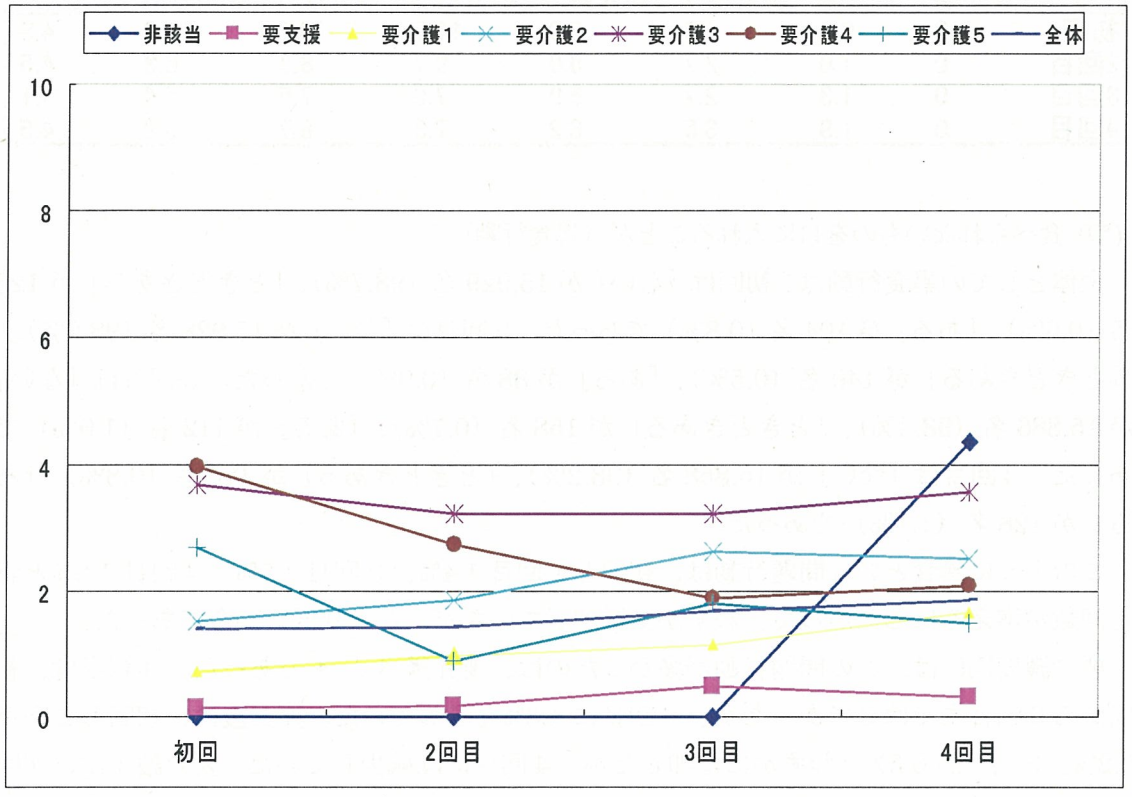

図 139　要介護度別　異食行為が「ある」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 123　要介護度別　異食行為が「ある」の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.2	0.7	1.5	3.7	4.0	2.7	1.4
2回目	0	0.2	1.0	1.9	3.2	2.7	0.9	1.4
3回目	0	0.5	1.1	2.6	3.2	1.9	1.8	1.7
4回目	4.3	0.3	1.6	2.5	3.6	2.1	1.5	1.8

(60) ひどい物忘れ

全体としてのひどい物忘れについては、初回は「ない」が 8,070 名（50.0%）、「ときどきある」が 3,325 名（20.6%）、「ある」が 4,761 名（29.5%）であった。2 回目は「ない」が 7927 名（49.1%）、「ときどきある」が 3,351 名（20.7%）、「ある」が 4,878 名（30.2%）であった。3 回目は「ない」が 7,902 名（48.9%）、「ときどきある」が 3,153 名（19.5%）、「ある」が 5,101 名（31.6%）であった。4 回目は「ない」が 8,074 名（50.0%）、「ときどきある」が 2,973 名（18.4%）、「ある」が 5,109 名（31.6%）であった。

このように、ひどい物忘れがある割合は、初回は 50%、2 回目は 50.9%、3 回目は 51.1%、

と増加するが、４回目は50.0%と減少していた。

要介護度別に、ひどい物忘れの割合が高かったのは、要介護 3 であった。要支援では、ひどい物忘れがある割合は、認定回数が増えるにしたがって増えていた。しかし、要介護 2 から 5 までは、減少していた。要介護 1 では、ひどい物忘れが初回から３回目までは増加するが、４回目で減少していた。

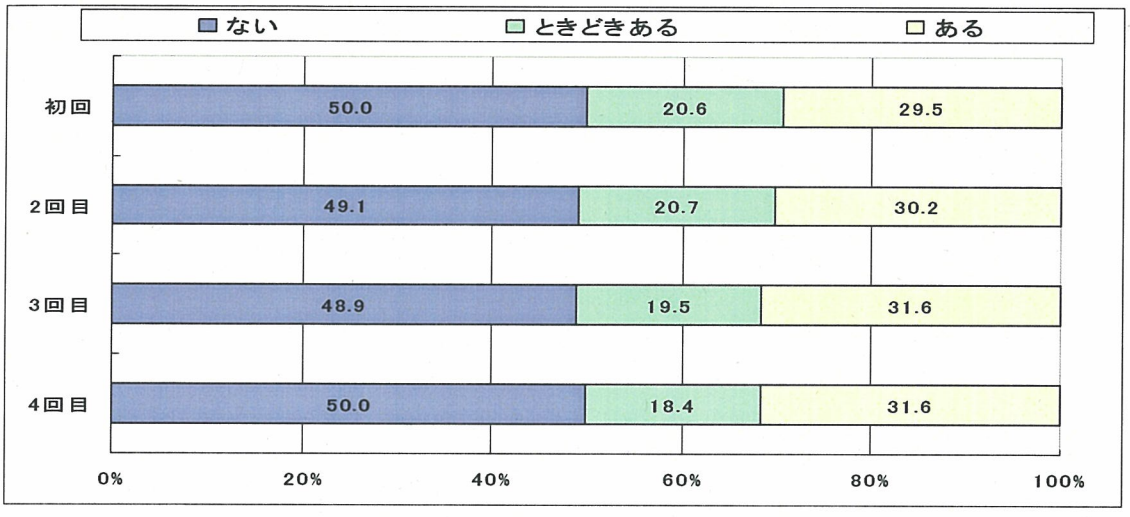

図 140　ひどい物忘れ（N＝16,156）

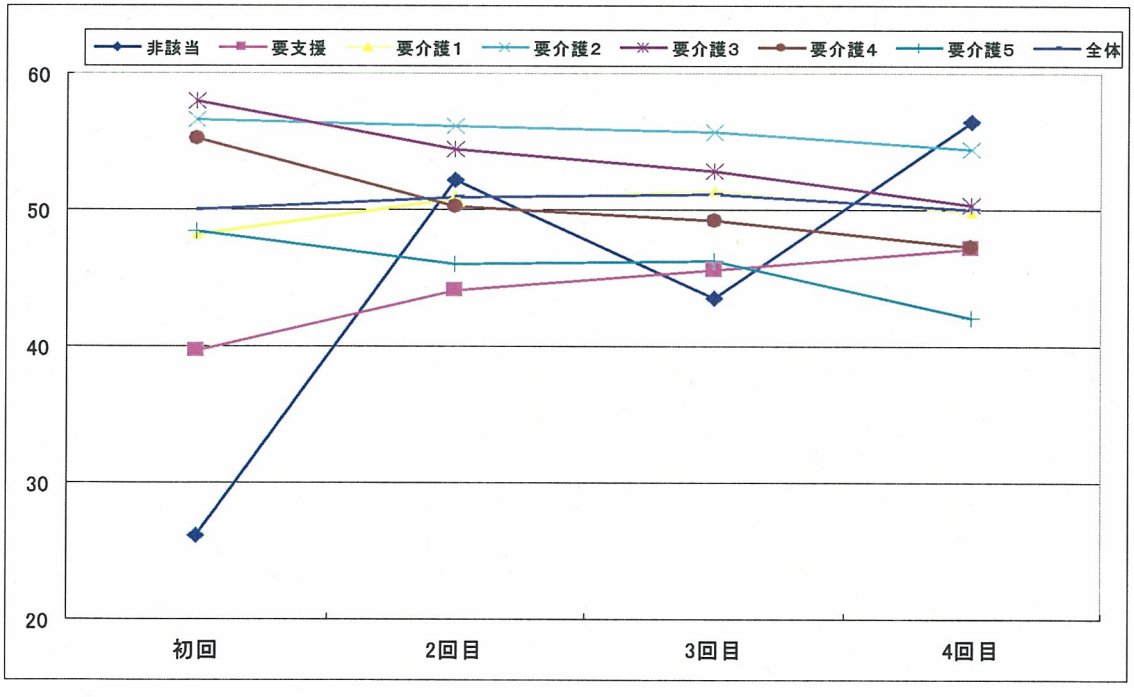

図 141　要介護度別　ひどい物忘れが「ある」の割合（%）の経年的変化（N＝16,156）

表 124　要介護度別　ひどい物忘れが「ある」の割合（%）の経年的変化（N＝16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	26.1	39.7	48.2	56.6	58.0	55.2	48.4	50.0
2回目	52.2	44.1	50.8	56.1	54.4	50.2	46.0	50.9
3回目	43.5	45.6	51.4	55.6	52.9	49.2	46.3	51.1
4回目	56.5	47.1	49.7	54.4	50.3	47.3	42.1	50.0

2.医療処置項目からみた経年的変化

(1) 点滴の管理

全体としての点滴の管理は、初回は「ない」が 15,266 名 (94.5%)、「ある」が 890 名 (5.5%) であった。2 回目は「ない」が 15,633 名 (96.8%)、「ある」が 523 名 (3.2%) であった。3 回目は「ない」が 15,628 名 (96.7%)、「ある」が 528 名 (3.3%) であった。4 回目は「ない」が 15,612 名 (96.6%)、「ある」が 544 名 (3.4%) であった。

このように点滴の管理は、初回は 5.5%にあったが、2 回目は 3.2%と減少し、3 回目 3.3%と増加し、4 回目も 3.4%と増加していた。

要介護度別には、要介護 5 に点滴の管理の割合が高く、初回は 26.6%を示していた。要介護 4 も高く 10.9%であった。初回から 2 回目で点滴の管理が増加したのは、要支援だけだった。他の要介護度は、すべて減少し、要介護 3 は、7.4%から 2.7%へ、要介護 4 は、10.9%から 2.4%へ、要介護 5 は、26.6%から 2.4%と急激に低下していた。2 回目から 3 回目に、要介護 2 と要介護 5 において、点滴の管理の割合が増加していた。3 回目から 4 回目においては、非該当が 0%から 13.0%へ増加し、要介護 1 も 3.6%から 3.9%へ、要介護 3 も 2.8%から 3.0%へ、要介護 4 も 2.0%から 2.5%へと増加したが、要介護 2 は、3.1%から 2.8%へ減少し、要介護 5 も 3.6%から 2.7%へと減少した。

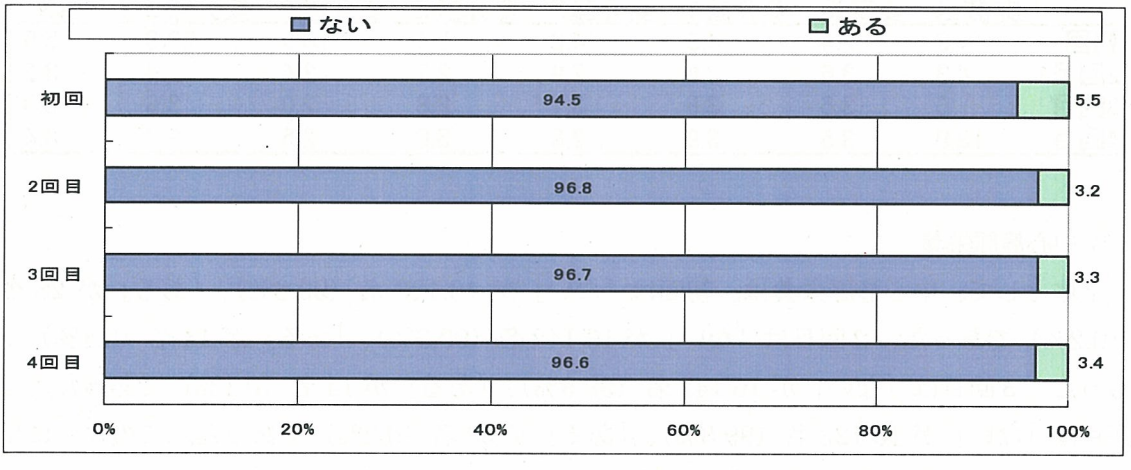

図 142　点滴の管理 (N=16,156)

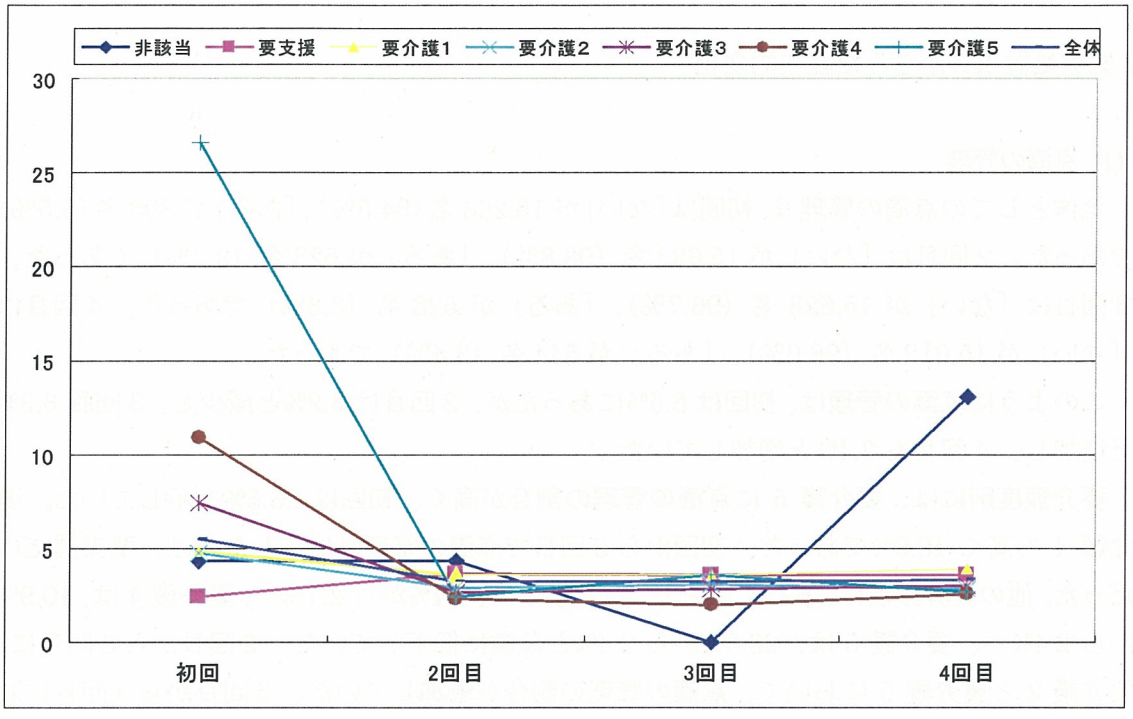

図 143　要介護度別　点滴の管理が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 125　要介護度別　点滴の管理が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	4.3	2.4	4.9	4.8	7.4	10.9	26.6	5.5
2回目	4.3	3.6	3.6	2.9	2.7	2.4	2.4	3.2
3回目	0	3.5	3.6	3.1	2.8	2.0	3.6	3.3
4回目	13.0	3.5	3.9	2.8	3.0	2.5	2.7	3.4

(2) 中心静脈栄養

全体として、中心静脈栄養は、初回は「ない」が 16,128 名（99.8%）、「ある」が 28 名（0.2%）であった。2 回目は「ない」が 16,142 名（99.9%）、「ある」が 14 名（0.1%）であった。3 回目は「ない」が 16,142 名（99.9%）、「ある」が 14 名（0.1%）であった。4 回目は「ない」が 16,123 名（99.8%）、「ある」が 33 名（0.2%）であった。このように中心静脈栄養は、発生率が初回から 4 回まで、0.2%か 0.1%とわずかであった。

要介護度別には、要介護 5 での発生率が高く、初回が 4.5%と示されたが、2 回目は 0.3%と大幅に低下していた。

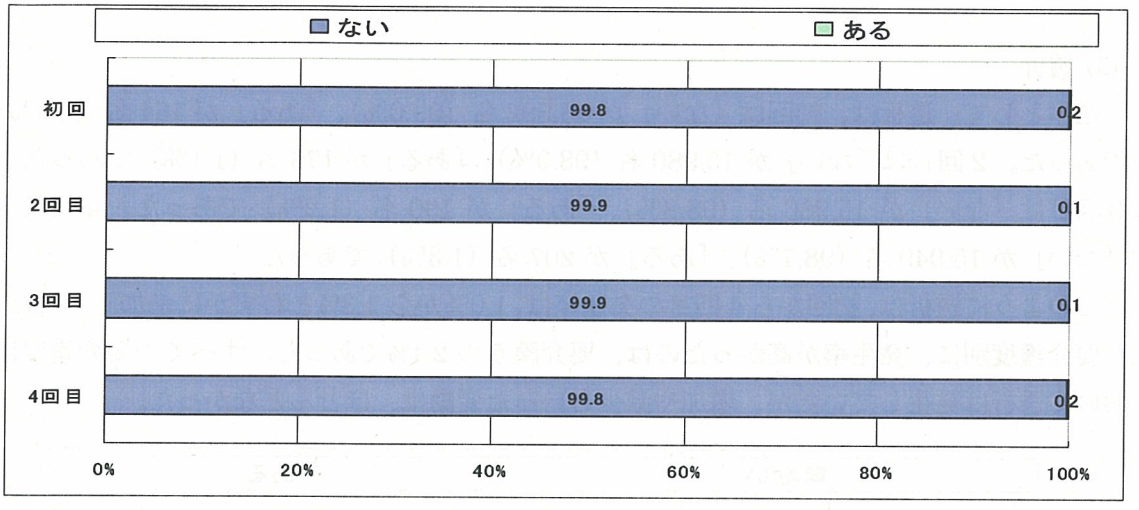

図 144　中心性脈栄養（N=16,156）

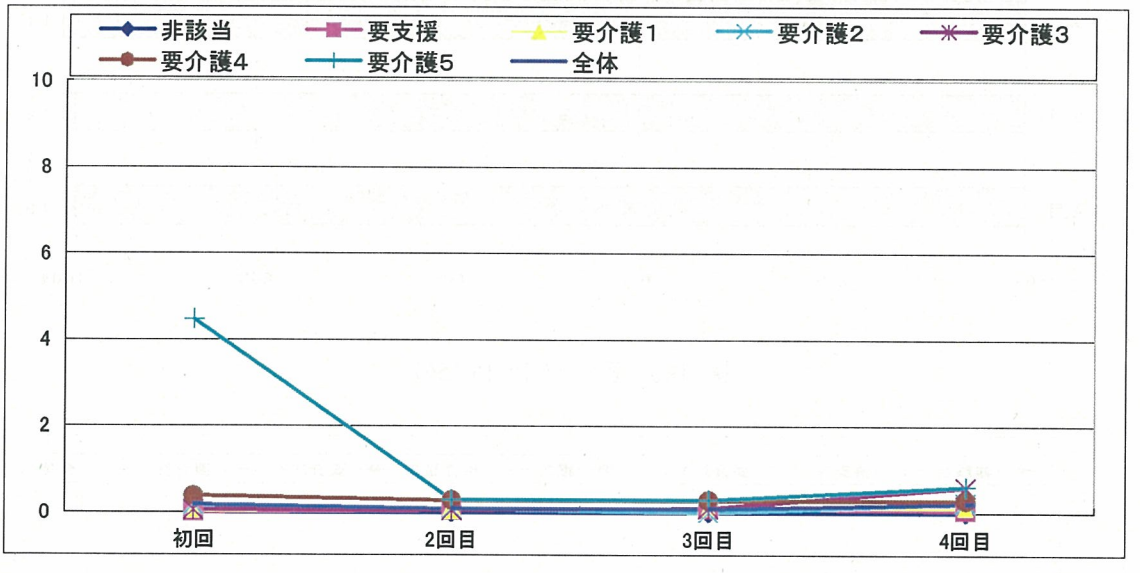

図 145　要介護度別　中心性脈栄養が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 126　要介護度別　中心性脈栄養が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0	0	0.2	0	0.4	4.5	0.2
2回目	0	0.1	0.1	0.1	0	0.3	0.3	0.1
3回目	0	0.1	0.1	0	0.1	0.3	0.3	0.1
4回目	0	0.1	0.1	0.2	0.6	0.3	0.6	0.2

(3) 透析

全体として、透析は、初回は「ない」が 15,992 名（99.0%）、「ある」が 164 名（1.0%）であった。2 回目は「ない」が 15,980 名（98.9%）、「ある」が 176 名（1.1%）であった。3 回目は「ない」が 15,966 名（98.8%）、「ある」が 190 名（1.2%）であった。4 回目は「ない」が 15,949 名（98.7%）、「ある」が 207 名（1.3%）であった。

このように透析は、初回から 4 回目の発生率は、1.0%から 1.3%とわずかに増加していた。

要介護度別に、発生率が高かったのは、要介護 5 の 2.1%であった。すべての要介護度において透析は発生していたが、増加や減少といった変動は、ほとんどなかった。

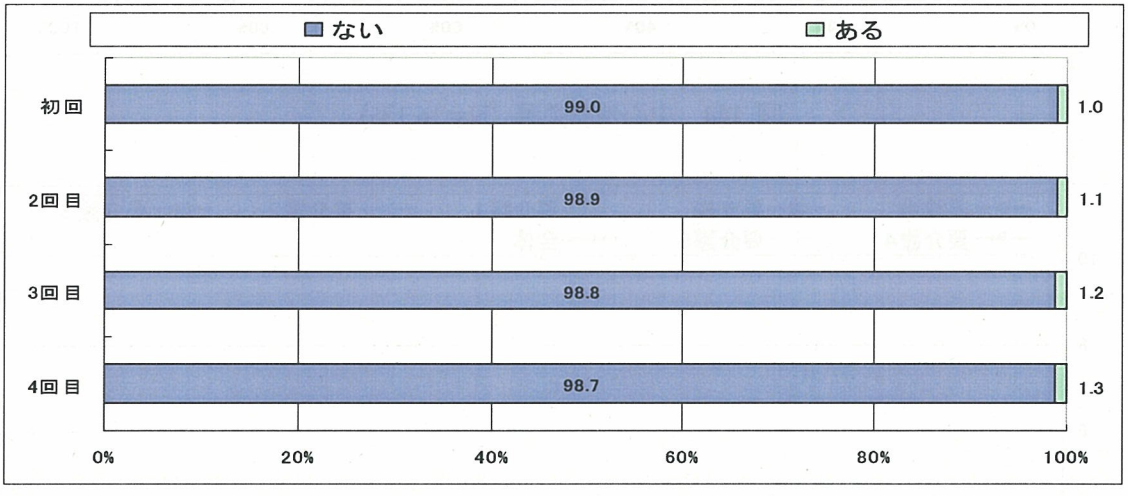

図 146　透析（N=16,156）

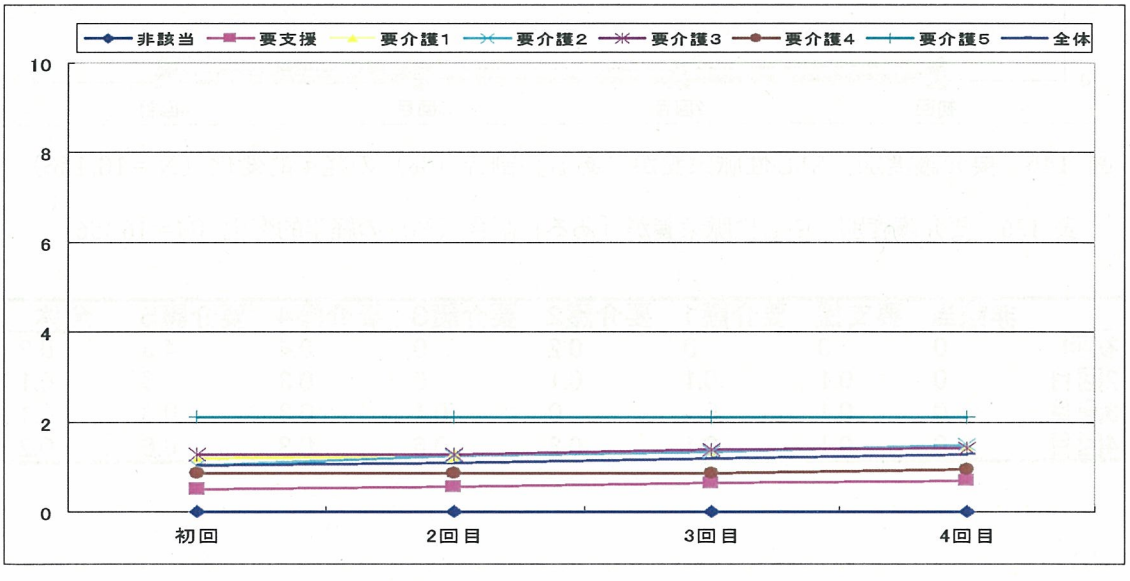

図 147　要介護度別　透析の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 127　要介護度別　透析の割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.5	1.2	1.0	1.3	0.8	2.1	1.0
2回目	0	0.5	1.2	1.2	1.3	0.8	2.1	1.1
3回目	0	0.6	1.3	1.3	1.4	0.8	2.1	1.2
4回目	0	0.7	1.4	1.5	1.4	0.9	2.1	1.3

(4) ストーマの処置

全体としてストーマの処置は、初回は、「ない」が 16,126 名（99.8%）、「ある」が 30 名（0.2%）であった。２回目は、「ない」が 16,118 名（99.8%）、「ある」が 38 名（0.2%）であった。３回目は、「ない」が 16,117 名（99.8%）、「ある」が 39 名（0.2%）であった。４回目は、「ない」が 19,111 名（99.7%）、「ある」が 45 名（0.3%）であった。

このように、ストーマの利用は 0.2%から 0.3%で、低い割合であった。

要介護別には、要介護３の 0.5%が他の要介護より、わずかに高い割合であったが、認定回数による変動は、要介護度別にみてもほとんどみられなかった。

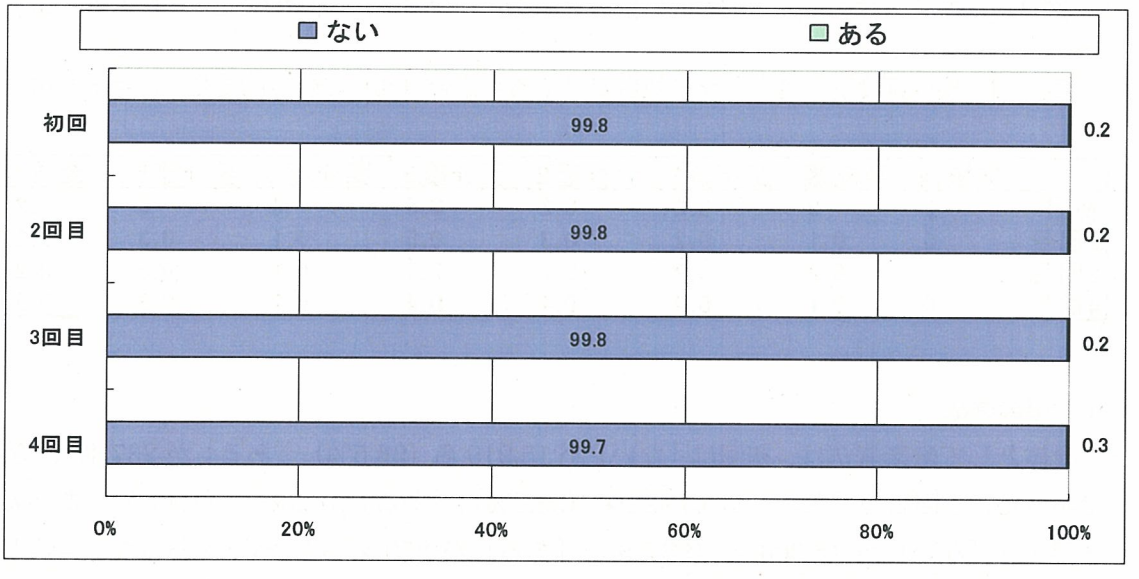

図 148　ストーマの処置（N=16,156）

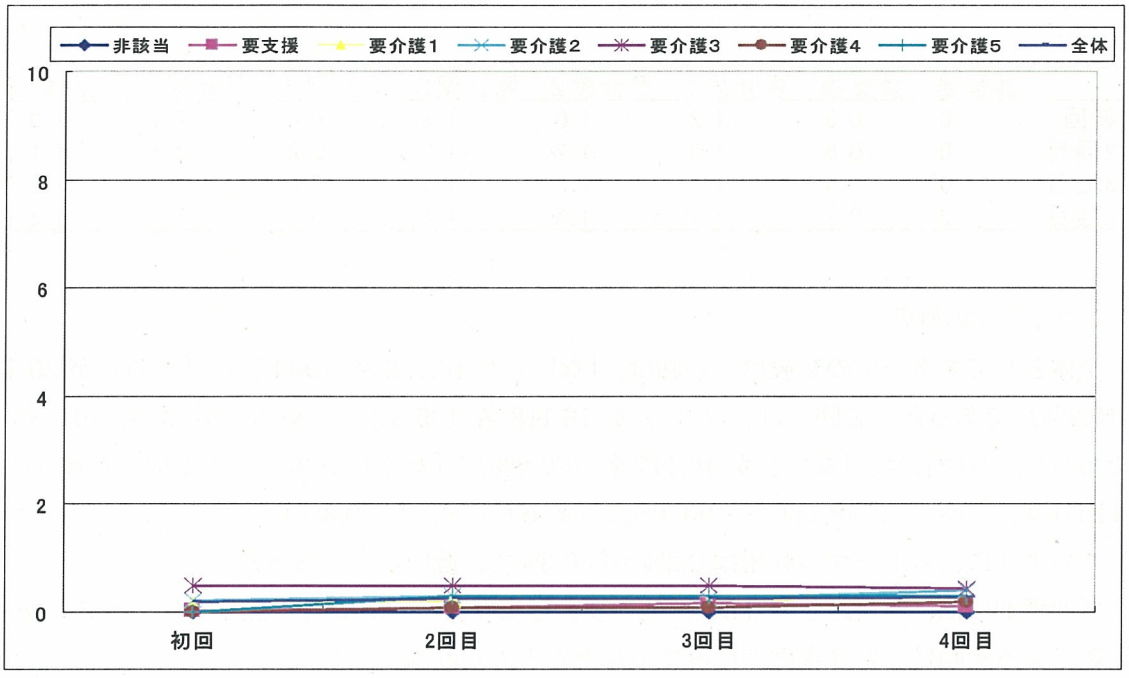

図 149　要介護度別　ストーマの処置が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 128　要介護度別　ストーマの処置が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0	0.2	0.2	0.5	0	0	0.2
2回目	0	0.1	0.2	0.3	0.5	0.1	0.3	0.2
3回目	0	0.2	0.2	0.2	0.5	0.1	0.3	0.2
4回目	0	0.1	0.2	0.4	0.4	0.2	0.3	0.3

(5) 酸素療法

全体として酸素療法は、初回は「ない」が 15,919 名（98.5%）、「ある」が 237 名（1.5%）であった。２回目は「ない」が 15,922 名（98.6%）、「ある」が 234 名（1.4%）であった。３回目は「ない」が 15,906 名（98.5%）、「ある」が 250 名（1.5%）であった。４回目は「ない」が 15,862 名（98.2%）、「ある」が 294 名（1.8%）であった。

このように酸素療法は、初回が 1.5%、２回目 1.4%と減少し、３回目 1.5%と増加、４回目は、1.8%と増加していたが、発生率が高い処置ではない。

要介護別には、要介護５の初回が最も高く 6.6%を示していたが、２回目は、2.4%と減少していた。要介護３から５までは初回から２回目で、発生率が減少していた。要支援から要介護２までは、認定回数が増加するにしたがって、酸素療法の割合が高くなっていた。

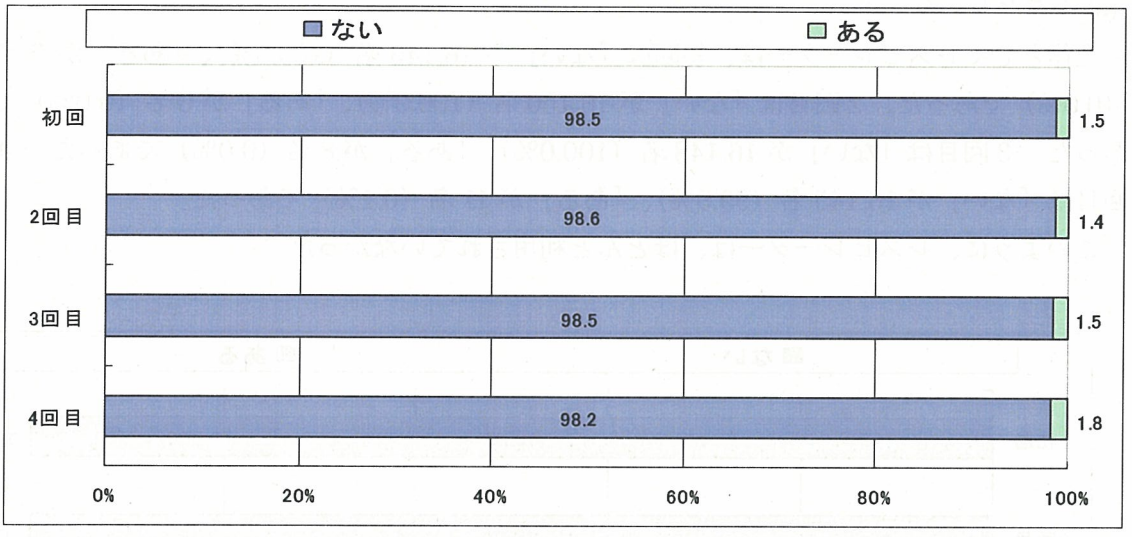

図 150　酸素療法（N=16,156）

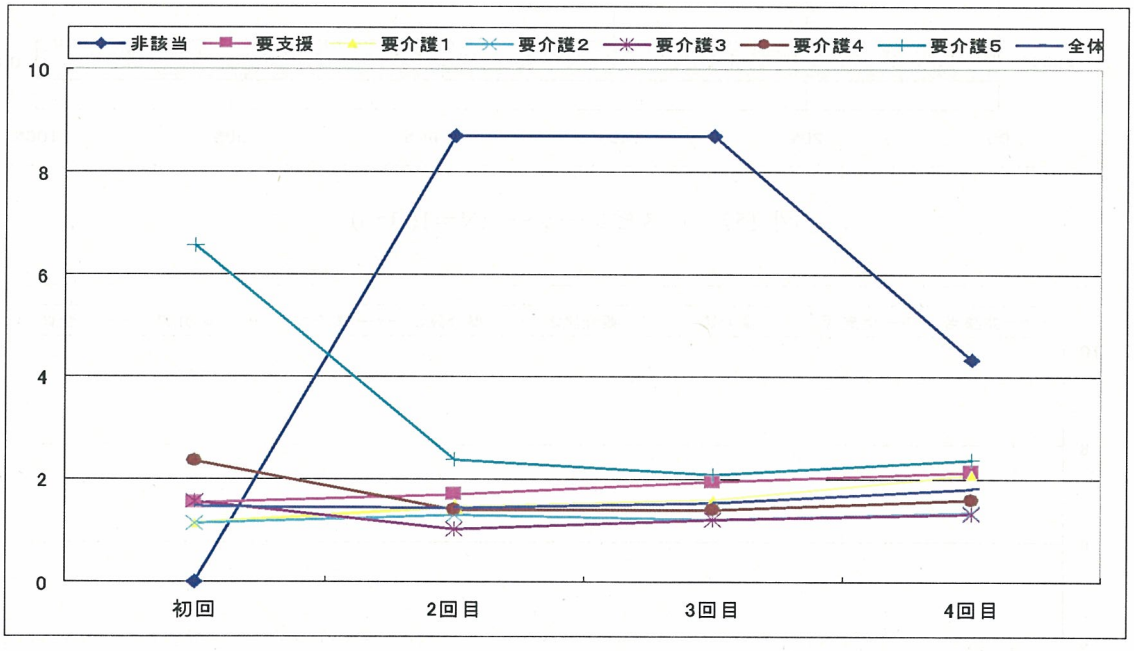

図 151　要介護度別　酸素療法が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

表 129　要介護度別　酸素療法が「ある」割合（%）の経年的変化（N=16,156）

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	1.6	1.1	1.1	1.6	2.4	6.6	1.5
2回目	8.7	1.7	1.5	1.3	1.0	1.4	2.4	1.4
3回目	8.7	2.0	1.6	1.2	1.2	1.4	2.1	1.5
4回目	4.3	2.1	2.1	1.4	1.3	1.6	2.4	1.8